

さくら塾・特別セミナー

『ここから始める小論文講座』 ～小論文のイロハの「イ」～

小論文を書くために必要な力、「イ」(情報収集力)&「ロ」(読解力)&「ハ」(表現力)。
小論文講座第一弾となる今回の講座では「イ」情報収集力について学びました。

日 時：平成26年2月25日(火) 15:40～16:40
場 所：視聴覚教室
対象者：2年生希望者
講 師：進路指導部長
内 容：書籍や新聞、ネット等を利用して必要な情報を収集し、語彙力を養うために今から始めておきたいこと。

2年生が志望校を具体的に意識し始める頃になりました。入試科目に小論文があることを知り、不安に感じている生徒は大変多く、約100人の生徒が参加しました。

家庭で購読している新聞、自分の進路に関わる本を持参し、新聞の読み方、本の読み方、読むべき本の選び方…等を具体的に知ることができました。新聞・本を読まなければならないと自覚はしていても、なかなか実行にうつせない生徒達は生き生きとした様子で参加していました。

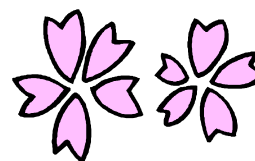


《生徒の感想より》

- ・ 志望校の受験科目に小論文があることを知り、学部を変えることも考えていました。やっぱり行きたい学部なので、挑戦してみようと思います。
- ・ 新聞の読み方が分かり、新聞を読みたいと思った。いろんな新聞の読み比べもしてみたいです。
- ・ 新聞を読んだら、思っていたより面白く、興味がわきました。
- ・ 毎日新聞に目を通すことから始めて、コラムノートにも取り組んで少しずつ力をつけていきたいです。
- ・ 情報収集のための読書という視点が新鮮で面白かった。読書の幅が広がった。現代文の授業に対する考え方が少しかわった。要約問題も積極的に取り組みたい。
- ・ 入試の対策という理由だけでなく、人生を豊かにするものとして新聞を読み、自分で考えたいです。
- ・ 小論文を書こうと思った時に、うまく書くことができない理由は、語彙力がないからだと思った。語彙力を身につけるために、分からない語は調べることを常に意識します。

「小論文・イロハのイ」講演要旨

さくら塾・進路特別セミナー



～みなさんに話したかったことを以下にまとめました～

2014/02/25

進路指導部

小論文のイロハとは

講座を受講した2年生の諸君、長時間、お疲れ様でした。本日の講座の内容は、小論文の書き方ではありません。小論文を書き始める前に、この程度のことはやっとならうという内容です。

小論文の試験で問われる能力は、文章の読解力と表現力。このふたつの力を伸ばそうと思ったら、その前に、必要な情報を的確に収集しつつ語彙を高めていく力を養っておかなければなりません。こういった力をとりあえず、情報収集力とよんでおきましょう。今回の講座では、小論文のイロハのイ、すなわち情報収集力を高めるための方法を紹介します（口は読解力、ハは表現力）。

大学の過去問を調べる

まずは自分の志望する大学の過去問を調べてみましょう。進路指導部には赤本（大学別の過去問集）もありますし、小論文過去問集もあります。数カ年分をまとめて見れば、出題傾向のおおよその見当がつかます。当たり前の話ですが、出題される文章は、その学部学科の研究内容と重なる場合がほとんどです。医学、教育、経済、福祉、スポーツなどの学部学科では、それぞれドンピシャな評論文が出されています。中には、必ずグラフや統計を出題する大学があったり、英文を読ませてテーマを論じさせるパターンもあります。能率よく勉強を進めていくためにも、まずは過去問を調べましょう。

新聞を読もう

ためしに小論文で課されている文章を読んでみましょうか。なかなか難解ですね。医療にせよ、経済にせよ、聞き慣れない用語がたくさん出てきます。小論文を得意にするためには、まずは現代文の読解力や一般常識が必要なんだということが改めて分かりますね。こういった問題を解決するためには、ある程度時間はかかりますが、やはり新聞を読む習慣を身につけることが大切です。

みなさん、毎日、新聞に目を通していますか。スポーツ欄やテレビ欄は見るけど、他の部分は余り読まないという人が意外に多いのではないのでしょうか。

みなさんのご家庭でもおそらく新聞を購読していると思います。本校の図書館にもありますし、スマホで新聞社のHPを開けば手軽に記事を読むことができます。進路指導室にも新聞が置いてありますの

で、読みに来てくれてもいいですよ。とにかく読む習慣を身につけましょう。

新聞を読むと、文章読解力がおのずと身につきます。急に効果はあがりませんが、現代文の力は確実にレベルアップしていきます。当たり前ですが、「現代社会」とか「政治・経済」とかの公民分野で勉強する中身は、新聞記事の内容と一致してきます。時には地理や歴史、理科の内容とも重なります。一般常識も身につくし、読めば一石二鳥、三鳥ですね。読まなきゃ損です。

家族や友人同士で、その日の新聞記事の内容について、意見を述べあったりするのはいいですね。登下校の車中や教室、家庭での団らんの一時に、時事問題を話題にするとよい勉強にもなります。

テーマはT P P、消費税、何でもいいです。記事をよく読み、知識を整理して頭の中でまとめ、自分なりの意見をもってみましょう。そして家族や友人と意見を交換するのです。当然、意見の食い違いが生じます。異なる意見がぶつかるについ感情的になりがちですが、ここは冷静に。相手の意見を受け止めて、筋道をたてながら相手を説得してみるのです。話し合いが進むうちに、新たな認識が生まれ、自分の意見を訂正する場面が登場するでしょうし、論破されたり論破したりと、丁々発止の場面もあるかと思えます。

新聞の読み方

一口に新聞を読もうといっても、どこから読んだらいいのか迷いますね。朝刊一部は新書本2冊に相当する情報があるといわれているぐらいですから。みなさんは忙しい身ですから、隅から隅まで読むわけにはいかないとします。そこで、是非とも読んでほしい記事を紹介しておきます。

まずは一面コラム。新聞最下段の広告欄の上にある横長のコラムです。朝日だったら「天声人語」、毎日だったら「余録」、読売だったら「編集手帳」、日経だったら「春秋」、中日だったら「中日春秋」、岐阜だったら「分水嶺」ですね。各社の記者の中で、最も見識が高い名文家が選ばれるといわれています。直近の時事問題が、四季折々の話題とともにコンパクトに取り上げられています。

続いて社説。各社の論説委員による最新の注目ニュースの解説です。各社の主張にそれぞれ色合いが違うので、読みくらべると勉強になります。各社HPでコラムや社説が読めますから、各社の論点を考えながら読むと視野が広がり思考力も養われます。

そのほか新聞には有用な記事がいっぱいあります。専門家や有識者のインタビュー記事、記者や社外の専門家が自説を述べるオピニオン記事のほか、用語解説や子ども向けの解説記事も勉強になります。理工系進学者は経済記事に注目するとよいかと思えます。経済欄には先端技術や新製品の紹介記事が充実しているからです。

コラムノートのすすめ

さて、新聞をつづけて読む習慣が身についたら、次にそれを文章力の向上につなげていきましょう。その方法としておすすめなのがコラムノートの作成です。

まずは方眼ノートを用意してください。マス目の大きさは自分の使いやすいものを選んでください。方眼にこだわるのは、すぐに字数を数えられるからです。そうですね、週に1本か10日に1本でいいので、気に入ったコラムや記事を選んで切り抜き、ノートにのり付けしてください。つぎに語句調べ。わからない用語や言い回しは面倒くさがらずに辞書で引いて調べましょう。辞書、電子辞書、スマホを適宜使いこなしてください。つづいて記事全体を要約してみることに。ポイントとなる語句や論点に注意

し短文にまとめてみましょう。最初は字数制限を考えなくてもよいかと思います。

ここまでは、実は現代文の学習と言ってよい内容ですね。いよいよここからが小論文の勉強となります。最後に記事の中身に対し、自分なりの意見をもち文章にまとめてみましょう。自分の意見をもち文章にするって、なかなか難しいことですが、これも日々の習慣です。そこでおすすめが、自分の主張をもつためのアンダーライン・トレーニングです。記事を読みながら、たとえば「これは世の中が進歩しているな、よくなっているな」と思う部分に赤ペンを、逆に「これは状況が悪化しているな、まずいな」と思うことに青ペンをアンダーラインするのです。これだけのことですが、続けていると、自分なりの視点がもてるようになります。

実はこれは私がオリジナルで考えた方法ではなく、大学1年の時に、ある講演で聞いたやり方です。その講演はある著名な歴史家によるものでした。自分で試してみてこれはいいなと思い、それから何かの機会があるたびに生徒諸君にもすすめています。是非試してみてください。

常に新聞に目を通し、週1回でもいいからコラムノートをつづけ、たまにノートを読み返すと、自分自身の知識や考え方、文章力に変化が現れているのが実感できると思います。まずはやってみましょう。

本の読み方 ～要点拾い読み～

さて、本日最後の話題は本の読み方です。小論文のための情報収集は、新聞だけでは不十分。やはり読書は不可欠です。ただここで紹介する読書は、じっくり読み込む読書ではありません。情報収集を主目的とした要点拾い読みです。

まず本を選ぶところから。書店や図書館の書架で、なるべく「鮮度」の高い本を選ぶところから始めましょう。時事問題系の書籍は、2～3年たつたないかのうちに、書かれている内容が古くなってしまい、情報として「無効化」しているケースが多いのです。日本社会は、リーマンショック（2008）と東日本大震災（2011）を境に激変したといってもよいかと思います。そこで、本を選ぶ際にはまず情報の「鮮度」に注意してください。

日本の出版界では新書ブームがつづいています。廉価な割に中身があり、アップツデーだからでしょう（だからすぐに古くなってしまふ）。注目株の専門家やジャーナリストが、耳目を集める話題や最新の研究成果を分かりやすく解説してくれる新書のシリーズは、情報収集のための格好の材料。新聞の書評欄で話題になっている本、図書館のおすすめ本などから選んでいきましょう。しかしながら大量な本の山をみると、何をどのように読んでいったらよいのか、思わず立ちすくんでしまいますね。そこで情報収集のための要点拾い読みの方法を紹介しておきます。

本文を最初っから全部読み進めないように。「まえがき」「目次」「まとめ」「あとがき」「著者略歴」から丹念に読んでいきましょう。「まえがき」「まとめ」「あとがき」を読めば、著者の論点や主張がおおよそ判明します。目次を読めば、著者の主張を固めるための論拠や反証の事例がわかります。「著者略歴」を読めば、実績や社会的認知度・信用性のある程度類推することができます。まずここをしっかりと読んで、本の中身を自分なりに推測し、必要な部分を拾い読みしていけばよいのです。必要だと思ったら完読・精読してください。単なる情報収集であればつぎつぎ読み飛ばしていけばいいと思います。

以上で、情報収集力について、小論文・イロハのイの話を終わります。